迦葉山弥勒寺

迦葉山弥勒寺は、沼田市中心部から北へ約 16 キロ、迦葉山にある大きな寺院である。曹洞宗のこの寺は杉の巨木が点在する鬱蒼とした森の中に、控えめな佇まいで建っている。

心揺さぶる過去

迦葉山弥勒寺は 848 年に上野国（現在の群馬県）の鎮守護国寺として創建された。創建者で諸国を遍歴した僧・円仁（794～864 年）が、釈迦の弟子である摩訶迦葉の名前に由来してこの山を「迦葉山」と名付けたという伝承がある。

当時の上野国の領主に頼まれ、円仁は迦葉山弥勒寺を当時の朝廷と結びつきがあった天台宗の寺院として創建した。寺は 15 世紀に、地元の伝承に大きな役割を果たす天巽という僧によって曹洞宗に改宗された。

天巽は寺の敷地内にそびえ立つ高さ 60 メートルの岩、和尚台の上で坐禅をしたと言われている。彼を補佐したのは中峯という弟子で、その超人的な能力はあり得ないほど険しい崖を登り、地元の人々に仏教の教えを広め、寺院の建物を整備するための仕事を疲れもせずに続け

たと言われている。天巽の死の直後、中峯は自分が摩訶迦葉の化身であることを明かしたという。そして、「迦葉山を信仰する人々の苦しみを除き、楽しみを与える」と伝え、鼻の長い仮面を残して昇天した。

境内の守り神

中峯の偉業から、彼は天狗であると信じられるようになり、寺は天狗信仰と結びつけられるようになった。人里離れた山や森を守る強力な守護神とされる天狗は、一般的に長い鼻かくちばしと羽を持つ姿で描かれる。迦葉山弥勒寺では鼻の突き出た天狗像とカラスに似た天狗像の 2 体が、守護神として中峯が祀られている中峯堂に立っている。このお堂の華麗な奥座は急勾配の多段祭壇になっている。最奥は 10 年に一度だけ開帳される。

現在の迦葉山弥勒寺へは車で行くことができるが、かつて境内は馬の乗り入れが禁じられ、その外に馬を置き、歩きながら寺に入るよう求められた。馬は入り口近くの空洞のある杉の古木にて下馬した。木が大きくて、寺から馬が隠れて見えないことから「馬隠れ杉」といわれた。今は駐車場から階段で下りることで見に行くことができる。